平成25年8月29日

各 位

上場会社名　北海道電力株式会社
代表者　取締役社長 川合　克彦
（コード番号　9509）
問合せ先責任者　経理部決算グループリーダー 林　秀博
（TEL　011-251-1111）

業績予想（連結・個別）の修正および繰延税金資産の計上に関するお知らせ

平成25年7月31日に公表した業績予想（連結・個別）を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。
また、平成26年3月期第2四半期累計期間において、下記のとおり繰延税金資産を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成26年3月期第2四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	―	―	―	―	―
今回修正予想(B)	289,000	△33,000	△40,000	△1,000	△4.86
増減額(B-A)	―	―	―	―	
増減率(%)	―	―	―	―	
（ご参考）前期第2四半期実績（平成25年3月期第2四半期）	277,011	△40,944	△49,400	△48,631	△236.56

平成26年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	―	―	―	―	―
今回修正予想(B)	642,000	―	―	―	―
増減額(B-A)	―	―	―	―	
増減率(%)	―	―	―	―	
（ご参考）前期実績（平成25年3月期）	582,990	△115,493	△128,184	△132,819	△646.08

平成26年3月期第2四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	―	―	―	―	―
今回修正予想(B)	279,000	△34,000	△41,000	△2,000	△9.73
増減額(B-A)	―	―	―	―	
増減率(%)	―	―	―	―	
（ご参考）前期第2四半期実績（平成25年3月期第2四半期）	268,278	△40,380	△48,900	△48,242	△234.66

平成26年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	―	―	―	―	―
今回修正予想(B)	617,000	―	―	―	―
増減額(B-A)	―	―	―	―	
増減率(%)	―	―	―	―	
（ご参考）前期実績（平成25年3月期）	559,349	△120,075	△118,670	△120,083	△584.13

修正の理由

1．業績予想について

平成26年3月期の業績予想につきましては、電灯・電力収入や燃料費を想定できないことから、連結・個別ともに未定としておりました。

本年8月6日に、経済産業大臣から電気料金値上げの認可をいただいたことを踏まえ、平成26年3月期第2四半期累計期間および通期の売上高を算定しましたので公表いたします。

また、泊発電所の再稼働を巡る現在の状況を踏まえ、9月末までの停止を前提に、下記「２．繰延税金資産の計上について」により見込まれる影響を織り込み、第2四半期累計期間の営業損益、経常損益、四半期純損益を算定しましたので公表いたします。

なお、通期の営業損益、経常損益、当期純損益につきましては、泊発電所の発電再開時期を明確に見通すことが難しい状況にあり、第3四半期以降の燃料費を想定できないことから、引き続き未定といたします。

今後、業績を見通すことが可能となり次第、速やかにお知らせいたします。

販売電力量につきましては、第2四半期累計期間145億kWh程度、通期314億kWh程度として想定しております。為替レートにつきましては、第2四半期累計期間、通期とも100円／＄程度、原油CIF価格につきましては、第2四半期累計期間、通期とも110＄／bl程度として想定しております。

２．繰延税金資産の計上について

電気料金値上げの認可をいただいたことを踏まえ、繰延税金資産の回収可能性について見直しを行った結果、平成26年3月期第2四半期累計期間において繰延税金資産を４１０億円程度計上する見込みとなりました。これに伴い、法人税等調整額を△４１０億円程度計上する見込みです。

※上記の予想は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上

参　考

個別業績予想の概要（対前年同期比較）

平成２６年３月期第２四半期（累計）の収支見通しにつきましては、収入面では、販売電力量の減少はありますが、電気料金の値上げや再生可能エネルギーの固定価格買取制度の影響などにより、売上高は増収となる見通しであります。

支出面では、泊発電所３号機の停止日数の増加による燃料費の増加などはありますが、人件費削減などの効率化に努めることに加え、海外炭火力発電所の稼働増による燃料費の減少などにより、経常損益は、前年同期に比べ損失幅が縮小する見通しであります。

以上により、第２四半期（累計）の売上高は２，７９０億円程度となり、営業損益は３４０億円程度の損失、経常損益は４１０億円程度の損失となる見通しであります。

また、繰延税金資産の回収可能性の見直しに伴い、繰延税金資産の計上額を法人税等調整額に計上することなどにより、四半期純損益は、前年同期に比べ損失幅が縮小し２０億円程度の損失となる見通しであります。

（億円）

	26年3月期第2四半期(累計) 見通し　①	25年3月期第2四半期(累計) 実　績　②	増　減 ①－②
売　上　高	２，７９０	２，６８２	１１０
営業損益	△　３４０	△　４０３	７０
経常損益	△　４１０	△　４８９	８０
四半期純損益	△　２０	△　４８２	４６０

【経常損益の変動要因】

（億円程度）

好　転　要　因		悪　化　要　因	
■ 海外炭火力稼働増による燃料費の減	１６０	■ 泊発電所停止影響	９０
		・燃料費の増 100 ・原子力バックエンド費用の減 △10	
■ 水力発電量の増加による燃料費の減	５０		
■ 人件費の減 （給料手当の削減など）	４０	■ その他	９０
		・修繕費の増 50 （火力発電所の定期検査基数の増加など） など	
■ 電気料金の値上げによる増収	１０		

差し引き　８０億円程度　好転

【四半期純損益の変動要因】

（億円程度）

好　転　要　因		悪　化　要　因	
■ 経常損益の好転	８０	■ 渇水準備金の引当	３０
■ 繰延税金資産の計上	４１０		

差し引き　４６０億円程度　好転